

地域の新たな振興作物 ～タマネギ生産に挑戦～

大河原町の合同会社あぐりパートナーは、町内で最も広い面積で経営し、家族経営で農業に従事している。

今年は、新たな試みとしてタマネギの生産に取り組む。圃場整備されていない農地にて挑戦している。

東北地方ではタマネギが特産品化している所は少ないと言われており、宮城県南地域でもあまり盛んでない状況に

ある。そこで、宮城県大河原農業改良普及センターやJAみやぎ仙南などの関係機関の勧めもあり新たな挑戦としてタマネギを2ヘクタール作付し始めた。

町内では他に2名の認定農業者も新たにタマネギを作付している。

町では、タマネギを新たな「振興作物」と位置付け奨励している。米の直接支払交付金が廃止され、農業経営環境が益々厳しさを増す中、こういった新たな取り組みの重要性が高まりつつある。

町の関係者は「その支援として、水捌けのよい圃場の整備や灌漑用排水の整備など行政機関やJAなどの関係機関が協力し合い、農家の支えになれるように、また新しい一歩が成功し、特産品化まで出来るように、互いに連携することが改めて重要」と語っている。



【記事提供：大河原町農業委員会】